



# 漫録 異動した府縣土木部課長評

## 路 政 僧

此度の土木主任官異動の範圍は、大阪と兵庫の土木部長の異動で終るのであらうと思つてゐたが、夫れが裏切られて二十府縣の多きに及んだ、退官組に敬意を表して書くことにする。

×

×

徳島縣土木課長で勅任待遇技師に爲つて退官した、中原藤一郎君、まる十四年間も地方土木技術に關係して退官した譯だが、齡五十に達するか達しないか位で官界から足を

洗はなければならぬやうに爲つたことを想ふと、矢張り東北大學教授をして氣焰を擧げてゐた方が彼の爲に得策だつたやうにも考へられる、併し彼が岩手で澤山道路の改良を計畫したことや、兎角の非難はあつたにしても失業救濟事業として府縣道津田小松島線を改良した功績を思ふと、何れの途を選んだ方が得策だつたか疑問だが、筆者は彼が眞面目な學究的態度を持つるのを見て、矢張り學者として奉仕した方が彼の爲、否な社會の爲利益だつたと思ふ。香川

縣時代に同じ鹿兒島生れの道路主事岩切彦吉と齧合の喧嘩をやつたのも今は昔の笑話しと爲つた譯だ。

彼は主として農業的な土木を研究した男で、其の御蔭で岩手あたりで澤山に耕地整理事業を起してゐる、近頃爲つて農林省が計畫しだした農業用排水幹線改良工事と言ふやうな變態的な河川改良事業を罷めて、中小河川を改良しやうと言はれてゐるとき、彼の如き農業的土木の研究者を内務系土木技術官界から失ふ事は何となく心残りがする。

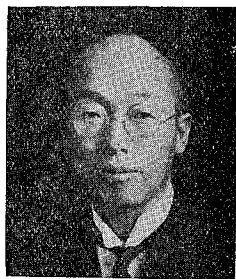
× ×

三重縣土木課長の齋藤英夫君は病氣の爲に罷めた、病氣ハハ……酒の爲に遂にやられたか、と早合點する人もあらう、程の酒豪家だつた。近年其の好きな酒もやめて専ら療



中原君

養に力めたが、矢張り職務に耐えられないので退官した。彼は山形の産で言葉が餘り明瞭でない爲に随分損を



齋藤君

した男だが、仕事はコツク々と熱心にやつた。失業救済問題で八ヶ間敷言ひ囃された山梨縣の國道甲州街道の改良でも彼が計畫したも

のだ、神代から行路難で名高かつた揖斐長良の架橋も彼が三重縣に轉ずる前から計畫があつたにしても、夫れを實現することを許さない事情の下にあつたのに、彼は赴任早々實行し今は下部工事を完成して、金があれば何時でも上部に着手される運に漕ぎ附けた、天下の大架橋と言はれた此工事の半ばで退官するに至つたのは、さぞ彼にとつては残念なことであらうが病の爲には已むを得ない。

彼の退官は此度の行政整理の恩典を受けるではなし、豫算の關係で休職にもなれず聊か酬ひられない感がする。併し之が爲に長官廣瀬久忠は實に涙ぐましい程の温情を以て臨んだと言はれてゐる。彼齋藤も前内閣時代に仕えたので地方政黨員の僻目からすりや反政友會と見られてゐるに違



東 君

ひない。其の寡圍氣の中にあつて長官廣瀬は彼の爲に行政整理の恩典や休職になる以上の財政的援助と精神的援助とを與えたそうだ。

世間には在官時代にはお互に親切味を見せるが、いざ退官となれば知らぬ顔の半兵衛さんを極め込んだり、餘程上等の部分でも退官當時の榮進方法を本省になすり附ける地方長官の多いとき、廣瀬のやうな人情味ある長官に仕えたことは彼齋藤の幸運と言つて可い、再び見ることの出来ないやうな此後援を頼りに尾鷲の海岸で靜養に力め再び奉公することが、長官廣瀬に對する謝禮であらう。

内閣が變つたら當然罷めるやうに言ひ囃されてゐた、千葉縣土木課長の東森藏君が其の世評の通りに退官した。當然な道を通つたやうにもある。夫れは曾て熊本縣時代に聲明書を出して政友會内閣―否な熊本の政友會員の行動を非

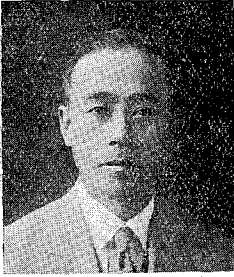
難して退官したこと、民政黨内閣の成立と同時に廣島縣土木課長に復活したことに依つて世評を産んだのだ、併し彼は夫れ程世評の通りに黨派的に働いたかは疑問だ、尤も去年の縣會では勝浦漁港の材料購入問題やら人夫賃の不當支出、夫れから不正の請負契約なぞで政友系議員から隨分油を絞られ、小數黨と組合つて策動したやうに言はれたが、事の實際は彼が夫れを指揮した譯でも無いのに政黨的僻見から囃し立てられたに過ぎなかつた、彼を知るものは世評程に彼を政治技師と見ない、唯だ彼の態度が民政系官吏特有の陰險性を帯びてゐると、内務省あたりへ顔を出しても課長以上の所へしか挨拶しないばかりか、土木に餘り縁のない警保局長室へ出入したりしたので彼は批評されたのだ。言はゞ歩むべき天地を自ら狭くしたやうなものだ。

彼の退官が噂されたとき、友人が何も好んで政黨色を附け進んで退官する必要は無いぢや無いかと、忠告したそうだが彼は夫れを排して退官した。矢張り心に期するところがあるのだらう。彼が知命の齡に達しない内に内閣が變れ

ば愛知の土木部長位に復活するであらう。

× ×

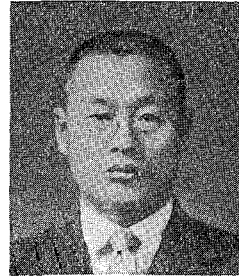
秋田縣土木課長片桐兼次郎君は休職に爲つた。休職發令當時彼が行衛不明に爲つたなどと宣傳されて頗る迷惑してゐるが、夫れは後で留守居の誤りと判つたが、夫れも彼が松島の産で言葉が餘り明瞭でないのに加えて口不調である崇であつた、是等の爲に彼は是れ迄隨分損をして來た、知事内田隆は川村竹治の寵兒として有名なだけに政黨的に活動する、で其の筋から片桐は隨分民政黨の爲に活動したから、誠れ、と言はるれば矢張り其の通り實行する位の勇敢さを持つてゐる、其の命令か要求かがあつた、恰度其のとき失業救濟事業として、執行する八龍橋架設の爲に地質試験をしてゐた、夫れを捉えて誰の決裁を受けて試験を執行したかと知事内田からお目玉を頂戴した、測量の一種だから課長限りで執行する



片桐君

慣例だと即答すれば可いのに、矢張り口不調法の爲に夫れが出来なかつた、夫れに民政系請負人の人夫を使つてゐたので矢張り民政黨の役人ぢやと見られ、此間不正があるので、夫れが事實とすれば氣の毒な感がする。併し知事が任官すると土木出張所長の全部を誠首し、參事會でなぜ出張所長位を處分するのかと質問され、人の言に盲動したのサ、と答辯する位な彼内田であるから彼が假令地質試験をやつて居なかつたにしても誠首されたであらう。彼は退官の挨拶をして、民政黨内閣に爲れば政友系役人と言はれ、政友會内閣と爲れば民政系役人と目され、地方廳の土木課長位詰らなものは無いと、呷つてゐた。忌むべきことだが實際の事であらう。

彼は明治四十一年東北大學土木工學科を卒業して、今日まで、地方土木技術を管掌して來た、時に技術の應用に非難を受けたことがあつても、相當の成績を残してゐる筈だ、夫れに何等酬ひられないで我が土木の官界から彼を去



上  
らしむることは、奉公人に  
對する禮を缺くの嫌があ  
る。筆者は茲に深甚の敬意  
を表したい。

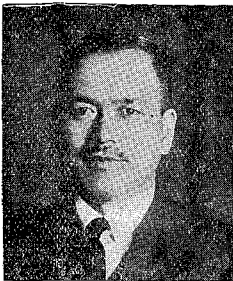
君 × ×

兵庫縣土木部の道路課長であつた上田柳一君が奈良縣土  
木課長に榮轉した。之は新進拔擢のやうだが、彼は大正三  
年の京大出であるから、四年出の吉岡君が土木部長に爲つ  
てゐるのに較ぶれば、餘り新らしい人事として賞えるだけ  
の價値はない、勿論彼は大學を出て永らく名古屋市に在職  
し、官吏に爲つたのは大正十四年廣島縣技師に爲つたのが  
始まりだから、在官年數から言へば或は新進拔擢とでも言  
へやう。

彼に初對面した人は、彼が人を馬鹿にするやうな態度に  
對し憤慨する向が多い、夫れと言ふのは彼の言動は常に熱  
がない、従つて何事に對しても誠意を缺くやうに見られる  
からである。兵庫縣時代にでも、あの大きな道路工事を執

行してゐるのだから、彼は夫等の工事に就て活躍すべきで  
あるのに、夫れには責任ある主任技師が置かれてあるから  
俺の關係外のことだと言つたやうな調子であるから此非難  
を受けるのだ、併し交際して見れば熱もあれば誠意もある、  
唯だ名古屋生れだけあつて心の裡を打明けないやうな陰險  
味があるのは惜むべきだ、赴任早々例の大和川地り事件  
が起つて君の手腕に俟つものがある。奈良を有史以前のや  
うに湖沼の地たらしむべきか否かは彼の双肩にある譯だ、  
熱誠を以て之を解決することが、今回の榮轉に酬ゆる途で  
あらう。

× ×

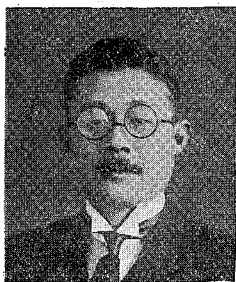


宮 内 君

内務省の直轄道路工事に従事してゐた宮内義則君が三重  
縣土木課長に爲つた。彼は  
大阪府土木部長の三輪君と  
同じ大正四年の京大出だか  
ら三重の課長位では役不足  
の感がする、轉任の内交渉

を受けたときも本人はお断りする氣であつたらしいが、長官廣瀬久忠が懇望したので承諾したと言はれてゐる。併し夫れを承諾するのは當然事である、と言ふのは彼がひら技師で岡山大阪高知と轉々してゐたときは餘り名も知られ無かつたが、大正十三年例の復興局に這入つて彼に箔を附けさせすべく歐米視察に赴かしためたのは彼れ廣瀬の盡力があつたからだ、で其の好意に酬ゆる當然の途を採つたのだ。

彼は正直一點張りの男で同僚間にも頗るうけが良い、併し對談中に吃る癖があつて之に禍されて其の行動に輕卒味が表はれるのは玉に瑕とでも言ふべきであらう。夫れに彼は是れまで純真な技術だけに關係してゐて行政の表面に立つ責任者では無かつたのに、之からは土木課長として縣會



三 浦 君

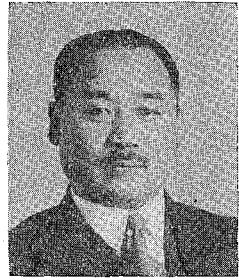
議員や町村長を相手に行動せなければならぬが、彼之を旨く切り抜け得るか懸念だ、併し親切味のある長官廣瀬や別宮内務部長の下

に行つた彼は幸福な男である。自重して何事にも落附いて仕事することが肝要だ。

× ×

宮城縣にゐた三浦義太郎君が青森縣土木課長に爲つた。彼は明治四十五年の仙臺高工出身であつて、同期の榊井照藏の後を襲つて課長に新任されたのだから當然な順序を辿つたやうにもある。併し大正六年技手として任官し後に技師と爲つて七年間も飯を喰つた生れ故郷の青森縣に課長として行くのだから、さぞ得意であらう。

彼は如才なく世の中を渡る利巧ものである、今回榮轉したのも湯澤内務省土木局長が宮城縣知事時代に彼の利巧性を知つてゐたからだと言はれてゐる。夫れ位に人の氣を見るに敏い人氣男である。従つて技術官で行政の局に方る役人としては或は適任かも知らないが、夫れが技術官としての彼を彩つたことには爲らない、寧ろ人事の態勢からすれば技術官で利巧過ぎるものは却つて本職の技術に疎いと言はれてゐる、で、技術と行政とを管掌する土木課長として



木 幡 君

彼の手腕は未知數だ、惠まれない青森には之から爲すべき土木事業が山積してゐる、殊に凶作救済の爲に興さるべき土木事業が彼の

腕に任されてゐる、事業の選擇は彼の得意とする所であるにしても技術の應用を誤つては事業の効果を擧げ得ないことに爲る。土木課長に推薦して貰つた局長に酬ふる爲には彼が技術官の本性に鑑て行動することにある。

X X

岐阜縣技師であつた木幡長命君が山形縣土木課長に榮轉した。彼も亦四十五年の仙臺高工出である。學校を出てから直ぐ山形縣に奉職し昭和三年岐阜縣技師に轉するまで、十何年間も居た言はゞ第二の故郷に歸つたのだから之も亦得意組の一人である。

彼は氣慨ある快男兒だ、岐阜縣時代には例の後藤季總の下に居て、後藤の行動が餘りに花々しかつた爲に彼は隠れ

てゐたやうであるが、一騎打ちを爲さしめたら彼も亦後藤の膝下に屈するやうな男ではない、永らく山形に在官した勢でもあらうが、政友會に好意——好感を持つたなどと言はれて非難されたこともある位に、政治的に活動する言はゞ政治技師型の男だ。

新米の課長ではあるが永年在官して縣下遍く足蹟を残しておいた地であるから彼の課長振りは大丈夫であるが、有名な長官川村貞四郎の下に政治技師木幡を配したことは鬪争心の熾烈な民政黨員の神經を失らさしめたことであらう。眞否の程は判らないが、今回の榮轉も亦同縣政友會系有力者の懇望に依つたのだと言はれてゐる。筆者は夫れが嘘であることを信じ否な期したのであるが、長官の氣慨と彼の性質とに鑑ると或は夫れを肯定せしめるやうな氣になる。併しよく考へれば是れ程詰らないことは無いのであつて、何も一黨一派に偏したなどと言はるゝやうに自ら行動するのは愚の骨頂である。愛すべき彼れ木幡の氣慨も之が爲に非難さるゝかと思ふと、今回の榮轉は彼の官界に於

ける生命線を短縮せしめたものと言つて可い。

× ×

神奈川縣土木部道路課長の春藤眞三君が富山縣土木課長に爲つた。彼は大正七年東大工科の出身だから之も當然の榮進と言つて可い、唯だ彼は普通の技術官と違つて學窓を出ると東洋コンプレツフル會社に入社して民間技術家として立つべく志したものが、途中目的を變更して例の復興院技師と爲つて官祿を喰みだした點である。

彼は温厚な男で荒くれた土方や政治的野望に狂奔する政治家を相手にするには不似合な性格の持主のやうだ、併し彼は當初から官界に這入つたものと違つて、土木社會の實際に携つて苦勞してゐるだけに世間慣れてゐる、會社事業の遂行に尠なからず奔走したことや、自ら工務所を開いて事業を經營したことは彼をして圓滿な堅實な男たらしめた。従つて彼は純眞



春藤 眞三 君

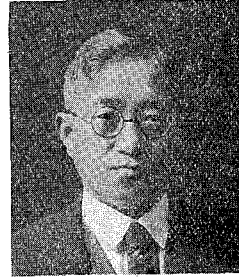
な工學の理論と技術の應用とを忘れず、夫れかと言つて技術家の陥り易い反世俗の態度がない、世には政治技師と紳名さるゝ技術家があるが、彼が工務所自營時代に法科大學を卒業し、法學士と爲つてゐながら尠しも夫れを表はさない點などは普通の技術官と異るところである。

彼の土木課長は初任である、併し彼の手腕力量からすれば富山の土木課長位は役不足だ、夫れであるのに此度の轉任に方つて、彼の妻君が民政黨某大官の妻君と仲が可いと言ふのでケチを附けた人があつたと言はれてゐるが、其のやうなことまで附加されて富山下りをせずとも、必ずや彼はモー尠し可い縣に行くべき資格を具へてゐるのだ、併し赴任した以上は彼の手腕を富山縣政に見せるであらう。長官鈴木敬一も彼と同じ型の男だから兩者共鳴して活動するであらう。

× ×

岩手の田中三郎君が、埼玉縣土木課長に轉じた。彼は會て政友會内閣時代に愛知縣土木部長に爲るべかりし運勢に





田中君

あつたのに内閣の交迭の爲に三重に逐はれ夫れからは岡山岩手と言ふ順に餘り香しくもない縣に轉々し、常に恵まれ無い男として同情

されてゐたが、此度埼玉縣へ轉じたのは蓋し近來にない彼の榮轉であらう、併し彼が明治三十九年の東大出身であることに鑑ると、榮轉などと笑顔してゐる時代ではない、彼が始めから官途に就いて居れば今頃は勅任官位に爲つて勇退を懇願される年配だからだ。

酒豪田中。の綽名があるやうに呑めば天下を取つたやうな氣焰を擧げるが、近頃は夫れも少々衰えたやうだ矢張りお歳の勢であらう。併し埼玉は土木王國と言はれる程に土木事業の多い縣である、彼が細い老眼鏡を通じて埼玉の地圖を眺めるかと思ふと氣の毒な感もする、併し在官する以上は之も已むを得まいが、東京市の恩給と官吏の恩給とを取るのが爲に已むなく官吏に居ると言ふ調子では、碌な事業

も出来ないであらう。歳はとつたにしても昔に若返つて埼玉縣の爲に果た彼自身の爲に働くことが肝要だ。

× ×

埼玉から千葉縣へ轉じた土木課長西義一君、縣の格式から見ると凡轉乃至左遷と言ふべきところだ、何故此やうな人事をやつたのか理由を發見するに苦しむ、變へるならモ一尠し利巧な方法もあらうとは獨り筆者だけの感想でもあるまい、丹羽社會局長官が埼玉縣知事であつたとき群馬から拔擢されて行つたのが少し行き過ぎであつたから、引き戻したと言はれてゐる。併し彼の手腕からすれば埼玉位の土木事業を熟し得ない筈はない、在任僅かであるからいかに僻見でも政黨的に行動したとも言ひ得ないであらう。だから轉任せしめられた理由

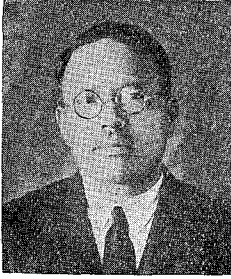


西君

が判らない。彼は霸氣のある快男兒で

其手腕の程は静岡を始めとし石川群馬で試験済みだが

少々慌て氣味のある男だから、悠々迫らなかつた東君の後釜としては可いコントラストである。千葉は仕事も勤い所だが、例の政治鬭争は随分煩さいらしい、夫れに加えて知事の大久保も内務部長の鈴木も復活組だ、殊に鈴木は千葉縣ばかりに居るやうな男で千葉縣内のことは何事も承知してゐて、前任者東君のやつたこと、殊に人事に就ては片つ端から壊そうとしてゐるから彼れ西の苦勞も一と通りではなからうが、内務部長の命令を鵜呑にすることは彼れ將來の爲め考へねばならぬ、東君が政黨的にやつた事でも可いものは可いとして取扱ひ、夫れがお氣に召さねば曾て彼が靜岡時代に牧博士と論争した意氣を見せるのも結構だ。



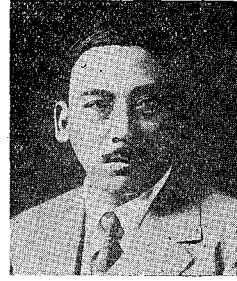
荒木君

奈良に燻つてゐた土木課長荒木榮二君が茨城へ轉じた。之は慥に榮轉だ、彼が大阪の道路課長から奈良縣土木課長に轉じたとき、贅

六式氣分を多量に持つ彼が課長として皆く活動するだらうかと言はれてゐたが、例の東大寺坊主の反對で有名に爲つた奈良街道の改修では、當時の知事笹井幸一郎の尻を叩いて促進を圖つたが、優柔不斷の笹井が尻を擧げないのに業を煮やし、彼れ荒木は東上して單獨に運動したりして世の彼に對する懸念を吹き飛ばした、夫れ程彼は熱心に眞面目に活動する男だ、奈良に於ける彼は役不足で恵まれ無かつたが、夫れでも八方に畫策した蹟が残されてゐる。

茨城は奈良と違つて澤山な土木事業を控えてゐる、此度の轉任で海のある縣へ行きたいと言ふ彼の希望も達しられしたので、彼は又一段と活躍するであらうが、此處も政民の鬭争は勿論のこと與黨政友會内部でも抗争して面倒臭い所だ、夫れに長官君島は知事の初歩だから彼の畫策に俟つところが多であらう。奈良と違つて關東だから夫れに氣を附けて幸に奮闘することだ。

岩崎雄治君は茨城から岐阜縣土木課長に轉じた。随分永



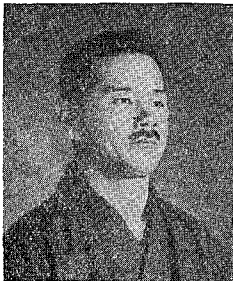
君 崎 岩

正五年の帝大出がまだ貧弱な縣に仕えてゐるのに較べて心を慰むるより外ない。

彼岩崎は温厚な男だ、従つて無理をやらない條理の在る所に附いて行く、これだから永年茨城に在職してゐても政黨的に彼は言はれた事がなかつた、森岡現警保局長でも彼の人格と手腕とを信用して重用したものだ、で若し彼れ岩崎に臍官的な野心があれば森岡を通じて相當な府縣に轉じ得られたであらうに、彼は決してその様な途を選ばない、そこに彼の高潔な人格を見出す事が出来得る。彼は茨城の在任永かつた爲に各所に名のある事業を残してゐる、唯だ水戸から磯の名所の御洗さんへ行く道路の何やら橋を沈下せしめたことは、假令夫れが技術的に誤がなかつたにして

らく水戸の飯を喰つて、水戸土木の守と言はれてゐたのだが、何が崇つて木曾の流れを見て暮さなければならぬのか判らない。併し大

も素人から彼は言はれた位が瑕と言へば言ひ得やう位だ。彼を迎へた岐阜縣は幸福だ、知事伊藤武彦は曾て内務省土木局に課長を勤めた男で、土木行政には趣味を持つてゐる、従つて可い土木課長を得たいものと畫策して、遂に彼れ岩崎を得た、其のときはから岩崎の計畫に俟つて岐阜の土木行政を改革し生れ故郷の産業を進展せしむると言つたとやら傳えられてゐる。此知事の下に喜んで迎へられたのは彼の幸福と言つて可い。併し岐阜には昔大土木課長と言はれた松尾國松が市長をしてゐて、縣の土木行政を監視してゐるやうだ、幸に是等と協力して彼の技術的手腕を發揮することが伊藤知事の所望を達せしむることに爲るであらう。幸に自重することだ。

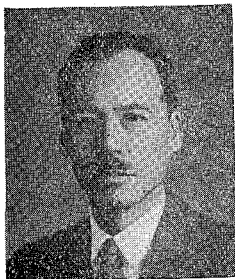


君 肥 土

政争の巷、大分にゐた土木課長土肥憲二郎君が福島に轉じた。内閣が變る毎に縣廳の役人を變へねば心の

虫が納まらないと言はれてゐる大分に居たのだから首にならずに轉任するに至つたのは、矢張り彼が公平に活動した證據とも言つて可い。

彼が大分に残したものは土木請負制度の改正であつた。砂利の請負制度を利用して地方の小政黨者流が飯を喰つてゐるのに驚いた彼は、何とかして此制度を改めなければ大分縣の道路の維持が完全になる時がない、併し夫れには政黨の反對を覺悟せなければならぬが、自分は排斥されても改革が實現さるれば夫れで満足すると言つて、遂に直營制度に改めたが從來の弊害を互に知つてゐる連中のことで餘り猛烈な反對も受けずに遂行したことは、彼の膽力のある所を示してゐる。



上野君

任地福島も政争の激甚な土地だが、大分で經驗した彼の手腕を以てすれば易々たることであらう。ツーク、辯の連中に彼れ日向男の山

椒味を注射するのも必要だ、大に彼の個性を發揮せしめたものだ。

× ×

歌人、上野節夫君が廣島の土木課長から岩手へ轉じた。變るべき行き先きも随分多いのに岩手に移されたのは聊か氣の毒だ、否な人を使ふ途に外れた遣り方だとも評し得るが、併し彼は從來積極的にやつてこそ妙味もあり效果の擧るべき土木事業に對し餘りに消極的態度を採つて、言はず事勿れ主義で日を送つたと言ふ噂の祟りも手傳つて岩手へ配されたのだらう。

併し廣島では此噂を潰消すべく努力した、宇品築港の擴張や府縣道の大改良計畫など随分畫策して縣會を通過せしめ、是から愈着工する段取りに爲つてゐたのに轉任するのは残念であらう。廣島を逐はれた主な原因は同地政友會の元老で土木請負業を經營してゐる某が知事を説服して排斥した爲だと言はれてゐる、併し之は憎むべき動機であるにしても一面彼の高潔な心事の表はれであるから餘り怒る程



丸山君

のこともない。

事業慾を出しだした彼を

事業の勘い岩手に送ること

は彼の志を裏切る譯だが、

何とか妙案を考えて志を伸

すことが必要であらう。歌を詠む趣味も固より結構だが、  
之が爲に與えられた本職を犠牲にするのは間違だ、廣島に  
於ける事業慾を維持して時機を待つのが肝要だ。

× ×

黨派心の濃厚な熊本から秋田縣土木課長に轉じた丸山悦  
三君、發令に接すると直ぐ行李の支度を整えて任地に向つ  
た、内閣が變つてから廳内の空氣が一變して不愉快な日を  
送つたが、是で不快の念が一掃されたと喜んだと言はれて  
ゐる、何でも前内閣で誠首された道路主事が復活して課内  
を切り廻し、政黨的に活動してゐると言ふことだが困つた  
ものだ。

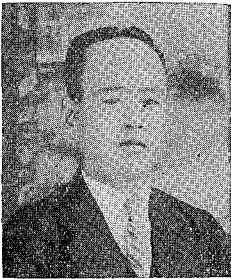
彼は呑氣な磊落な男だ、いかに政黨者流が怒つたつて決

漫 録

して是等の門戸を叩いて釋明するやうな男ではない、併し  
熊本の政情を知つた彼も少々感附いたものか、政黨の如何  
を問はないで縣會議員を相手に酒を呑んで暮したと言はれ  
てゐる。實際何事を企てゝも鬭争の爲に實現不可能と諦め  
た勢であらう。

任地秋田も煩さい土地であるのに加えて財政貧弱で手も  
足も出ない縣だが、そうかと言つて秋田美人を相手に飲ん  
でゐては彼の任務は果たせない、幸にも内務部長の福島榮  
三は彼と大學を共にしたと言ふことだから、昔の友人に立  
戻つて二人が智恵を絞つて目新しい仕事をするのが肝  
要だ。

× ×



淺見君

淺見洋君は福島土木課

長から福井に移された、同

見じ雪國で氣候には恵まれな

いが、文化の程度は福島よ

りは上等だから辛棒しなけ

一六三

ればなるまい。

彼は福島では餘り評判が良くなかつた、例の調子で雄辯を振り過ぎた爲であるか、夫れとも神經質的にツーク連を統制しやうとしたのが禍したのであつたか判らないが、彼は米國の大學に遊び相當の學識を持つてゐるに不拘、折角取得した學と術とを應用して彼の眞價を發揮せしむるだけの餘裕ある府縣に廻らないで、いつも片田舎の縣を轉々してゐるのは、聊か氣の毒ではあり寶の持ち腐れの感がある、夫れには彼自身が餘り苦勞せず人と爲つてゐるからお坊チャン式に氣儘をする缺點もある様だが、夫れは年所を経るに従つて自然的に改め得る點であるから、智能利用の見地に於てモ一尠し新式の文化的施設をやる縣へ廻して



後藤君

貰ひたいものだ。之は本人は勿論所望するところであらうが、筆者は公的の見地に立つて希望する、彼も亦徒に悲憤慷慨する避を抑え

て眞面目に活動することが必要であらう。

× ×

岐阜から廣島の土木課長に轉じた後藤季總君、マ一榮轉と言つて可い、彼は仕事に恵まれてゐる男であつて、熊本から岐阜に移つたときは例の岐垣國道改良事業が待つてゐた、夫れに當時の知事鵜澤憲が土木事業家であつたので庄川問題やら、犀川治水問題を片付けて、大に手腕を振つたものだつた、其の論功行賞の意味で榮轉したのであらう。ところが又廣島には前任者上野君が計畫した澤山な土木事業が待つてゐる、詰り事業に恵まれた幸福な人だ。

彼は鵜澤の爲に餘り働き過ぎて純眞技術の應用を忘れたと言ふ噂もあるが、彼に言はしむれば知事に立てついて見たところが最後の決定權は知事にあるのだから土木課長を責めたつて駄目だと言ふであらう。一應の理屈はあるが、技術の應用を知事が土木課長に一任すべく信用を受けねばならぬ、彼は夫れを得ないから噂を生むのだ、朝から晩まで部下を指揮してギヤノ、言ふのも可いが、知事の信用を



菅君

求むるに先つて部下から信任の尊敬を受くるのが必要だ、大に自重する必要があらう。

X X

山形から徳島へ變つた菅良二君、前内閣時代に窪田知事に仕えて随分損をしたものだ、先づ失業救済府縣道改良事業に就て見ても判る、一町村内に必ず一箇所の起工地を選擇して農民を使役しやうとするのであつたが、政府の起工方針は夫れではなく、就業能力があつても就勞の機會を得ない失業者を救ふと同時に道路の改良を策せと言ふのであつて、彼の考は救済する相手方を間違つたばかりか道路本位は無視されてゐたので八ヶ間敷非難されたものだ、彼は知事が此方針でなければ聞き入れないから仕方がないと辯明してゐたが、いかに内務行政に明るくないと言ふ定評ある窪田知事にしても、彼が土木主任官會議で承つた政府の方針を知事の頭に徹底せしめたならばモ一少し合理的に出

來たであらうとは一般の觀測であつたが、彼には夫れが出來ないのである。此調子だから鈴川警察部長が縣會議員の選舉に活動した傍杖を喰つて告發さるゝやうな損もあるのである。

彼は非常に溫順な人である、知事に建策しやうとする氣はあつても成るべく控え目に行動する、従つて彼の考察は長官に徹底しないのである。此度仕える知事は苦勞人の落合慶四郎であつて、彼は必ずや建策を聽入れるだけの雅量がある筈だ、此度こそは彼の本心のあるところを現はさしめたいものだ。

X X



中山君

中山熊雄君は福井から大分へ變つた。彼は大正三年の京大出であるが、所謂二三流の縣ばかりを轉々して歩いてゐる、此度の轉任も彼には餘り嬉しくもなければ悲しくも無からう、此調子だ

から友人は一體熊さんは何をしてゐるのだらうと噂してゐる位だ、併し本人は呑氣な父さん然として左様の心配は御無用とばかりに済したものだ。

彼は有ゆる家内遊技に長けてゐる。碁、將棋は勿論のこと麻雀トランプ等々と知らないものが無い位だ、勿論人間には娯樂が必要で、此娯樂の持合が無いやうな人は駄目だが、夫れかと言つて夫れに耽溺してはならぬ、殊に職を技術に置くものは一層のことである。然るに彼は此病に罹つてゐる嫌がある、彼に言はしむれば頭を使ふやうな事業のある縣に廻されないから遊技に耽るのだと言ふであらう、併し他働的に暮してゐては土木事業の効果などは舉り得ない、此度の轉任を機會に娯樂慾を抑えて、行き詰つてゐる別府大分間の國道位は改良して貰ひたいものだ。

× ×

青森縣土木課長であつた榊井照藏君が、政争の地熊本へやられた。勿論榮轉たるを失はないのであるが、之が彼の將來を大ならしむる所以かは頗る疑問だ、此度の選舉に方



榊井君

位であらう。此度の轉任は彼の前途を危殆に陥らしめたものだ。

彼は青森で活動し十和田湖道路を一ケ年位で改良して、昔から青森秋田の兩縣が争奪してゐた十和田の名勝地を、事實上青森の勢力圏内に抱き入れたのは、初歩の土木課長としては珍らしい程の功績であつた。夫れに縣營電氣を計畫するやら随分働いた、是等のことから認められて熊本に移されたのであらうが、本人や青森縣にとつては迷惑至極のことだ、縣勢の進展を犠牲にしても尙黨争に耽つてゐる地では、何事を計畫しても駄目なことは請合だ、だから唯だ經常的な仕事だけに盡して居れば、誡首だけは免れ得るであらう。